

日本語の文における類義語の「あがる」と「のぼる」の用法分析

—意味論からの一考察—

マリナ・ディア・ウィディアティ
0242012



FAKULTAS SASTRA
JURUSAN SASTRA JEPANG
UNIVERSITAS KRISTEN MARANATHA
BANDUNG

2009

にほんご ぶん
日本語の文における

類義語「あがる」と「のぼる」の用法分析

「意味論からの一考察」

序論

日本語はさまざまな特徴を持っているため、インドネシア人に^{がくしゅう}学習する興味を持たせる言語の一つである。日本語の特徴の一つとしてほとんど同じ意味を持つ単語が多くあることである。日本語ではこのような単語を類義語と言う：

「類義語というのは、意味が同じか、またはよく似ている単語のことである。」（徳川、宮島 1972 : pp 3）

その^{ていぎ}定義により、類義語は同じあるいは似ている^{いみ}意味を持つ単語であることが分かる。これはどの品詞にも生じるもので、動詞にも生じるのである。

例え；ある^{たんご}単語が他の単語とほとんど同じ意味を持つとしても、ある文においては意味のニュアンスが違う場合がある。したがって、筆者は日本語文の文脈において「あがる」（上がる、挙がる、揚がる）及び「のぼる」（上る、登る、昇る）の意味を分析することに興味を持つ。両方の単語は「上がる」という同じ意味を持つ。

以前のデータの分析により、筆者は既存の理論に基づいて参照すると；
次のような結論となる判断する。徳川（1972：3）によると、「類義語は
近さにより区別することができる」：

- 一方が他方にふくまれる
- 部分的にかさなりあうもの
- かさならないもの

日本語の文においては「あがる」及び「昇る」の意味は「上がる」だけ
ではなく、次のように解釈される意味もある：

「あがる」という単語の意味

- 下から上に移動したり、位置が高くなる。
- 家などの中に入る、または、大勢の人々から見えるような所に出る。
- 物事の価値・値段・地位・程度などが高くなる。
- 上級の学校に進む。
- 大きな声や音が出たり、大勢や評判が高まる。
- ある現象、効果など発生する。
- 名前、証拠などが表に出る。
- ある仕事やゲームなどが完了。

- 雨がやむ。
- 水中から出る。
- 行事、生計などをある金額で済ませる。
- てんぷらなどの料理が食べられる状態になる。

「のぼる」という単語の意味：

- 高い所へ行く。
- 上流へ進む。さかのぼる。
- 昔にさかのぼる。
- きょうへ行く。都へ向かって行く。
- 高い位につく。昇進する。
- 物の上に置かれる。
- 対策2のために出場する。
- 数量がある程度に達する。
- 取り出して示される。提示される。取り扱われる。
- 太陽や月、または、煙などの軽いものが上の方に移動する。
- 話題に取り上げられる。

本論

以前のデータの分析に基づき、「あがる」という動詞が「のぼる」と言

う動詞に置き換え、また「のぼる」という動詞を「あがる」という動詞に置き換えるという置き換えの方法を使うことにより、筆者は「あがる」という動詞が「のぼる」という動詞に置き換えると全が同じ意味を持つわけではないことに注目した。一方、「のぼる」という動詞が「あがる」という動詞に置き換えるとしても、全てが同じ意味を持つわけでもない。次のデータを見てみよう：

1. 「あがる」が「のぼる」に置き換えできる文：

1.(61) a. 屋上に上がっておしゃべりをしました。 (KF1999:6)

b. 屋上に上っておしゃべりをしました。

2. 「あがる」が「のぼる」に置き換えできない文：

7.(7)a. 右肩が少し上がっている。 (DY1989:5)

(7)b. 右肩が少し上っている。

3 「のぼる」が「あがる」に置き換えできる文：

35.(74)a. 車が急な坂道に上る。 (DY1989:406)

(74)b. 車が急な坂道に上がる。

4. 「のぼる」が「あがる」に置き換えできない文：

39.(90)a. 太陽が東から昇ります。 (KF 1999:377)

(90)b. 太陽が東から上がります。

結論

既に述べたデータ及びデータの分析に基づき、筆者はいくつかの「あがる」という動詞が「のぼる」という動詞に置き換えできる場合もあるが、そうでない場合もある。また、「のぼる」という動詞が「あがる」という動詞に交換できる場合もあれば、交換できない場合もある。これは、文において置き換えをした現れる単語に出る意味のニュアンスのためである。

1. 日本語の文における「あがる」と「のぼる」の用法。

a. 「あがる」は主語のある文の中で使うことができる。

— 人・物がある空間の中において・全体的部分的にあるいは位置の移動すること；乗り物では低い所から高い所へ移動すること。また、スピードが高くなること。身体では全体的にあるいは部分的な動作をすること。

— 人が地位・仕事の能力が高くなること。

— 数量、能力、温度、乗り物のスピード。

「あがる」が使えない文。

— 太陽が主語の文で、「あがる」は使える。太陽が毎日、常に同じ反復の動作をするからである。

b. 「のぼる」は主語を持つ文において使うことができる。

- 人・乗り物・生き物・ガス・物などの単語。下の所から上の所へ位置の移動を示すこと；人が主語の文では役職を高くなり、話題に取り上げて、地方から首都へ行くことを示す。
 - レストランに食べ物が食卓に出されることを示す。
 - 山・木・川が対象になっている文。「あがる」と違って「のぼる」は徐々に移動していく過程に重点を置いている。
2. 「あがる」と「のぼる」が置き換え可能文。
- a. 「あがる」で「のぼる」が置き換えることができる文。
 - 移動していく過程を示し、動作の結果を示す。
 - 起点と終点の動作が分かる。「山・木・川」という単語が使われる文。
 - 主語になる人が移動する最終点があることを示す。
 - 全体的動き、動作の過程を示すこと。
 - b. 「のぼる」で「あがる」を置き換えることができる文。
 - 主語になる人が動作の過程を示す。また、終点を示す。
 - 動作の過程を示し。また、主語が動作の終わる結果を示すこと。
3. 「あがる」と「のぼる」の意味のニュアンス。
- a. 上がる・揚がる・挙がる
 - 低い所から高い所へ移動することです。移動した所、位置、程度など移動の結果に重点あります。

- 成績・評判・値段など、ものごとの価値や程度が高くなることです。また、「終わる、完了する」の意味で、「出る」の意味で、「緊張してふだんの落ち着きがなくなる」の意味が示すことです。
- 地方から首都へ行くことを示す。
- 水の中から陸上に移ることを示す。
- b. 上る・登る・昇る
 - 低い所から高い所に移動することですが、高い所を目指して徐々に移動していく過程に重点があります。
 - 人・乗り物・生き物などの単語。高い所に達するために移ることを示す。
 - 自分の力で移動することを示す。

DAFTAR ISI

KATA PENGANTAR	i
DAFTAR ISI	v

BAB I PENDAHULUAN

1.1 Latar Belakang Masalah.....	1
1.2 Rumusan Masalah	6
1.3 Tujuan Penelitian	6
1.4 Metode Penelitian dan Teknik Penelitian	6
1.5 Organisasi Penulisan	8

BAB II KAJIAN TEORI

2.1 Pengertian Semantik.....	9
2.1.1 Makna Leksikal.....	11
2.1.2 Makna Gramatikal.....	11
2.1.3 Sinonim	13
2.2 Doushi	17
2.2.1 Agaru.....	21
2.2.2 Noboru	22

BAB III ANALISIS MAKNA KALIMAT NOBORU DAN AGARU

3.1 Agaru	26
3.2 Noboru	47

BAB IV KESIMPULAN

SINOPSIS	73
----------------	----

DAFTAR PUSTAKA
LAMPIRAN
DAFTAR RIWAYAT HIDUP